

学校法人西南女学院
西南女学院大学短期大学部
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

西南女学院大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 西南女学院
理事長名	田中 綜二
学長名	植田 浩司
ALO	岩阪 憲和
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	福岡県北九州市小倉北区井堀一丁目3番2号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活創造学科		100
保育科		150
	合計	250

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

西南女学院大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学の前身である西南女学院は、大正 11 年にアメリカ南部バプテストの宣教師たちにより「キリスト教に基づく女子教育を行うこと」を目的とする修業年限 5 年の高等女学校として設立された。

昭和 21 年に、女性の高等教育機関として英語科及び生活科からなる西南女学院専門学校を設立した。昭和 25 年には西南女学院短期大学を設立し、英語科及び家政科を開設した。我が国で最も古い歴史を持つ短期大学の一つである。

昭和 33 年には保育科を増設するとともに、家政科を家政課程と栄養士課程に専攻分離し、昭和 46 年には、食物栄養科の設置が認可され、昭和 51 年に家政科を家政専攻と被服専攻に分離し充実を図るなど、常に時代のニーズにこたえた学科編成を心掛けてきた。

短期大学設立時に建設されたマロリー館にあるマロリー・ホールは、木製の椅子と卒業記念として贈られたステンドグラスにより歴史を感じさせる独特の雰囲気を持っている。一方、図書館をはじめ平成期に建設された校舎は明るく近代的で、未来に向かう学びやとして、また学生の憩いの場として十分な規模と機能を備えている。

設置されている両学科は、短期大学設置基準の定める教員数を十分満たしており、また学位、教育実績、研究業績、創作物発表など、短期大学の教員にふさわしい資質を有している。校地・校舎面積も短期大学設置基準を十分満たしている。設置設備も整っており、活用されている。

単位取得状況については、シラバスで示された評価基準に従って適切に評価が行われている。アドバイザー制度を導入し、学生生活全般にわたる相談を手厚く行っており、退学等の減少につながる良い結果をもたらしている。

入学に関する支援、学習支援、学生生活支援体制、進路支援、多様な学生に対する特別な支援がきめ細かく実施されている。

研究については、全体として活動は十分にされている。研究活動の活性化のための条件整備もおおむね適切に行われている。

社会的活動は、建学の精神である「感恩奉仕」を基に積極的かつ活発な活動を行っている。学生のボランティア活動の中には、「こくらハローズグルメマップ」の制作、「ハンドベルクワイヤー」の活動のように、市民権を得ているすばらしい活動もあり、総じて活発な社会的活動が行われている。

理事長は、学校法人の運営にリーダーシップを発揮している。理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催されており、業務を執行している。監事は、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるなど寄附行為に規定された業務を適切に執行している。学長は、当該短期大学の運営方針を明示し、大学評議会で方針を決定している。その方針を受けて教授会で審議が行われ、必要に応じて大学評議会に議案が戻されるなど適切な運営が図られている。事務部門は併設大学と共通になっており、事務諸規程により適切に業務を行っている。

財務運営は、予算については計画から執行・決算に至るまで適正に行われており、資産運用は安全性を第一に健全に行われている。財務情報の公開も積極的である。財務体質については、過去3ヶ年間の消費収支において、学校法人全体では黒字であり、財務状態は健全に推移している。

併設大学と合同の点検評価改善会議において、部門ごとに点検評価を行い、その結果を「点検評価改善報告書」にまとめ、ウェブサイトに掲帖を掲載して周知している。

当該短期大学は、時代や社会の変化に合わせて様々な組織変更を柔軟に行ってきたが、根底にある「キリスト教に基づく女子教育」という目的はいささかも変化しておらず、「感恩奉仕」の建学の精神と併せて、学校行事や集会においてそのかん養を図っている。このことは、当該短期大学の教育に重みを与えるものとして機能しており、将来にわたり優秀な人材を輩出していくための基盤をなすものと考えられる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 院長・学院宗教主任・宗教主事を置き、建学の精神・教育理念をかん養する体制を確立している。キリスト教教育を基軸として、様々な場面で建学の精神・教育理念に触れられるよう努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 生活創造学科の基礎学力向上対策として、社説・コラム・エッセイ等の「書き写し」を実施するとともに添削指導している。また地元百貨店との提携により「ファッションビジネス論演習」をインターンシップとして開講している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 保育科の学習資料室として「本・紙芝居の部屋」「視聴覚教材の部屋」「保育図書の本棚」を設置している。また、「おもちゃの部屋」「モンテッソーリ教具の部屋」「製作演習室」「自習室」は、学生の主体的学習を助ける良い試みである。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 様々な問題を抱える学生に対し相談に応じることができるアドバイザー制度というシステムを構築し、機能させている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 資格取得や試験対策として多彩な就職支援プログラムが用意されており、2年間にわたり複数回の就職ガイダンスやきめ細かな個別指導が実施されている。

評価領域Ⅵ 社会的活動

- 「こくらハローズグルメマップ」の制作、「ハンドベルクワイヤー」の取り組みは、社会への貢献のみならず、学生に対する教育効果も期待できる。
- 生活創造学科において「ボランティア演習」を必修科目とし、専任教員の専門領域に近いボランティア活動を設定している。

評価領域Ⅶ 改革・改善

- 毎年自己点検・評価を実施し、とりまとめた「点検評価改善報告書」を学内の電子掲示板で公表し、全員が長所や課題を認識する努力がなされている。
- 平成19年度から平成20年度にかけて、夙川学院短期大学と相互評価を実施している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育理念・教育目標を全学で共有するためにも、「GUIDE BOOK（大学案内パンフレット）」や「CAMPUS LIFE（学生便覧）」などにおいて文言を一致させておくことが重要であると考ええる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生による授業評価アンケートは、評価の実態を把握する点からも全科目で実施することが望まれる。学生の負担を軽減するため、質問項目の厳選を検討されたい。
- シラバス作成について、見やすさについてより一層工夫を図ることが必要であることから、シラバス作成委員会等を設置するなどして再確認する必要がある。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員個人の研究活動の状況は、広く社会に対し積極的に公開することが短期大学の使命として望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学長の選考、欠員補充の決定、重要事項の扱い等、これまで当該短期大学において慣例的に運営されてきていることについて、それぞれの規程との整合性を検討されたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人全体の財務状況は健全であるが、定員充足率を改善するなど具体的な計画を立て、短期大学部門の収支バランスを改善することが望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 当該短期大学として独立した自己点検・評価組織の設置のほか、全員が自己点検・評価に参加することを保障するシステムを構築する必要がある。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学の建学の精神・教育理念は確立している。建学の精神「感恩奉仕」は、昭和4年に当該短期大学の前身である西南女学院の教育体制を地域に示した際に掲げたもので、印刷物やウェブサイトのほか大学行事や授業、説明会等の様々な機会に繰り返し述べられている。

「キリスト教の愛の精神に基づいた教育により、知性と感性に優れた心豊かな女性を育成する人間教育・人格教育の実践」という教育理念は一貫しており、オープンキャンパス、進路ガイダンスで学外に周知し、また入学生に対しては、オリエンテーションで詳細に説明して、共有するための努力を図っている。

教育目的・教育目標については、「GUIDE BOOK (大学案内パンフレット)」や「CAMPUS LIFE(学生便覧)」の編集、教育課程の作成にあたり毎年点検されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

一般教育科目は、建学の精神を反映した「キリスト教学Ⅰ・Ⅱ」を中核に、各分野にわたりバランスよく開講されている。

専門教育科目については、保育科の教育課程は法的基準によるところが大きいいため編成に独自色を出せないきらいがあるが、生活創造学科は教養系科目を基盤としつつ、学生のニーズにこたえようとする努力が見受けられる。

生活創造学科においては、生活技術を基本として社会生活への適応を図る教育を目指している。保育科においては、子育て支援の推進という社会的背景にかんがみ、変化する保育ニーズにも対応できる保育者を養成するため、教育課程の見直し、担当教

員の充実について検討し、改善を図っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

設置されている両学科は、短期大学設置基準の定める教員数を十分満たしており、また学位、教育実績、研究業績、創作物発表など、短期大学の教員にふさわしい資質を有している。年齢構成についてはバランスが取れており、教育支援職員を配置するなど教育の実施体制は整えられている。

校地・校舎面積も短期大学設置基準を十分満たしている。設置設備も整っており、活用されている。古い学舎設備でありながら、それを感じさせない美しさを保っている。

図書館は併設大学との共用であるため、広さ、座席数、蔵書とも十分確保されている。参考図書等も十分に備えられ、指定図書制度を設けている。また、図書館利用を活発にするため種々のオリエンテーションを開催している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位取得状況については、シラバスで示された評価基準に従って適切に評価が行われている。単位認定は、それぞれの分野の特性に応じたもので、おおむね妥当なものとなっている。

アドバイザー制度を導入し、履修、進路選択、生活や健康上の問題など、学生生活全般にわたる相談を手厚く行っており、そのことが退学、休学、留年の減少につながる良い結果をもたらしている。資格取得に関する多彩な取り組みが行われており、また進学対策など進路への配慮も十分である。

卒業生の評価については、いくつかの試みがみられるものの、更に客観的な評価への取り組みが求められる。

評価領域Ⅴ 学生支援

併設大学があることから、組織面や施設面でかなり恵まれた体制が整えられている。

生活創造学科は、大きく定員割れを起こしているという危機感から、入学前指導や基礎学力向上について相当の努力がみられる。保育科には、教育課程の中核である学外実習の支援のための実習指導室が設けられ、3人の教育支援職員が専従する形をとっている。

進路支援については、就職課を中心に充実した取り組みがなされている。

評価領域Ⅵ 研究

研究については、実績にばらつきはあるものの、全体として活動は十分な展開がされている。しかし、研究活動の公表は十分とはいえず、今後は積極的に情報を公開し、

研究内容を社会に還元していくことが望まれる。

科学研究費補助金の申請は継続して行われ、採択実績もあり、また学科単位で取り組んでいる私立大学等経常費補助金特別補助にも採択されている。

研究費は毎年予算に計上され、8割程度が使用されている。また、併設大学と合本で研究紀要を年1回発行し、発表の機会を確保している。

研究に係る機器、備品、図書などは十分用意されており、研究室も、部屋数、面積とも研究を行うのにふさわしいものである。また、学外研修日として週1日が確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動は、建学の精神である「感恩奉仕」を基とし、人間教育・人格教育の実践であると位置付けられており、理念上の強力なバックボーンを有して行われている。活動の中には、社会人受け入れや国際交流・協力の面で、相手先の需要をいかに喚起するか、その工夫をいかにするかといった点に今後の課題を残してはいるものの、地域貢献及び学生のボランティア活動においては、積極的かつ活発な活動をみることができる。

併設大学との連携体制を有効に活用し、公開講座「シニアサマーカレッジ」や、授業外講座を実施している。生活創造学科に「ボランティア演習」を開講し、学生のボランティア活動を奨励している。

学生のボランティア活動の中には、「こくらハローズグルメマップ」の制作、「ハンドベルクワイヤー」の活動のように、市民権を得ているすばらしい活動もあり、総じて活発な社会的活動が行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は、学校法人の運営にリーダーシップを発揮している。理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催されており、業務を執行している。監事は、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるなど寄附行為に規定された業務を適切に執行している。

学長は、当該短期大学の運営方針を明示し、大学評議会で方針を決定している。その方針を受けて教授会で審議が行われ、必要に応じて大学評議会に議案が戻されるなど適切な運営が図られている。

事務部門は併設大学と共通になっており、事務諸規程により適切に業務を行っている。学生が良く利用する部署に意見箱を設置し、学生の声を直接聞いて業務の改善に日常的に取り組んでいる。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は、予算については計画から執行・決算に至るまで適正に行われており、

資産運用は安全性を第一に健全に行われている。財務情報の公開も積極的である。

財務体質については、過去 3 ヶ年間の消費収支において、学校法人全体では黒字、財務状態は健全に推移している。また、余裕資金の内容については、将来計画を見込んだ目的別引当資産化されており、納付金還元率も高く維持されているところから、健全である。さらに、財産管理、そのためのセキュリティ対策も十分に行われている。

定員充足率が、平成 18 年度から平成 21 年度にかけて低下しているが、このことに関しては、3 年を目途に学科再編も含めた検討をするワーキンググループを立ちあげたところであり、有効な対策が期待される。

評価領域 X 改革・改善

併設大学と合同の点検評価改善会議において、部門ごとに点検評価を行い、その結果を「点検評価改善報告書」にまとめている。報告書の作成には、教職員全員がかかわる体制をとっている。点検評価改善報告書は学内の電子掲示板で報告し、ウェブサイトにも抜粋を掲載して周知している。

今回の第三者評価の前に、平成 19 年 8 月から平成 21 年 1 月にわたり、夙川学院短期大学と相互評価を実施した。

自己点検・評価による改善への努力はみられるが、ファカルティ・ディベロップメント (FD)、スタッフ・ディベロップメント (SD) については更なる充実が望まれる。